

## <今朝の聖書から>

【信じた】聖書は、ヨハネによる福音書8:51～59が開かれました。「あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」(8:56)”とあることに気が付きます。いったいアブラハムはどこで主を信じ、救いを信じたのでしょうか。実は“主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。(創世記15:5～6)”とあるのです。これがアブラム(アブラハムのこと)が主を信じた理由です。しかし私たちには、もっと厳格な出来事“十字架の出来事と復活”があります。しかし、なかなか信じないのです。では信じるというのはどんなことでしょうか。勿論イエスキリストを信じることを問いたださなければならぬのですが、ユダヤ人はどうだったか、よく理解できる箇所があります。53節に“預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。”と主イエスに詰め寄っている箇所があります。すぐに分かることですが、このように質問できるのは、“自分は無実”という根拠からです。聖書の箇所はちょっと前になりますが“あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか(48節)”という箇所があります。“サマリア人である”ことが裁きの理由になる。裁く人々は正しいサマリア人ではないユダヤ人です。主を批評・判断したのです。

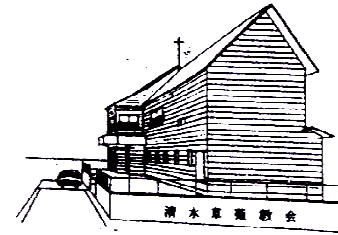
【石を取り上げる】今朝の結論は、主に対する死刑判決です。そしてその強行です。“すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出て行かれた(59節)”とあるのは、実際に死刑が執行されたということを示しています。先にみたような、憎しみを決定的にしたのがその前にある“私はある”という言葉です。この言葉は、殆んど直訳と言って構いませんが、モーゼに燃える柴のところで、神自身が自己紹介に用いられた言葉です。

【この方を信じる】キリスト教会は、この主イエスを信じています。熱心に信じているのですが、ここに主を裁く小さな、しかし大きく成長していく裁きも潜んでいるように思います。54節をみましょう。“私の栄光をも求めたとすれば空しい”と語られるのです。すなわち、神の前に御自身も立たれるということです。その点においてはキリスト教会の告白も同じです。先週の“小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる(12:32)”という御言葉が思い出されることでしょう。信仰深いユダヤ人の目の前で“私は神だ”と答えたらどうか、もっと身近に言えば“私は神だ”と言ったとしたら、教会はどんな扱いをするのでしょうか。ここに“教会の正しさと言えるようなもの”も潜んでいるようです。遠い昔に、パレスチナで起こった事なら信じていてもよいけれど、“いま私たちが信じ告白する神は、高く栄光に輝く神だ”と答えてしまわないかということです。本当の教会の信じるキリストはごく身近にいてくださるのです。

【裁きは悪霊】主イエスは、裁かれるのは神であり、“私もみ前に立つ”と語られます。ユダヤ人たちは、同じ正しさのように見える信仰心で裁こうとするのです。罪深さは、時として伴われる主を忘れた熱心さから出ることさえあります。

# 週報

2011年 11月 6日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042